

令和 7 年度

第 2 次山形村教育振興基本計画

点検・評価報告書

令和 8 年 6 月

山形村教育委員会

目 次

■ はじめに	1
1 趣旨	1
2 点検・評価の対象	1
3 第2次山形村教育振興基本計画 施策体系・事業計画一覧	2
4 点検・評価の方法及び活用等	3
5 点検・評価シートの構成	3
6 点検・評価シートの様式	4
■ 点検・評価の結果及び今後の取組方針について	5
1 評価委員会の点検・評価報告書	5
2 評価委員会の点検・評価シート(第2次評価)	9
3 教育委員会の取組方針	38
(1) 幼児教育と子育て支援	38
(2) 学校教育	39
(3) 青少年健全育成・家庭の教育力向上	40
(4) スポーツ活動	40
(5) 文化芸術・文化財、生涯学習	41
(6) 人権教育	41
■ 参考資料	42
1 山形村教育振興基本計画評価委員会設置要綱	42
2 山形村教育振興基本計画評価委員会委員名簿	43

■ はじめに

1 趣旨

山形村教育委員会では、第 6 次山形村総合計画に対応する個別計画として第 2 次山形村教育振興基本計画を令和 6 年 3 月に策定しました。この教育振興基本計画では、施策の目標を定め、目標を達成するための関連事業を展開することが定められています。また、計画の実効性を確保し、効果的な教育行政を進めるため、毎年度計画の進捗状況を評価することとしています。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和 31 年法律第 162 号)第 26 条第 1 項では、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果を公表することが定められており、第 2 次山形村教育振興基本計画の点検・評価は、この法律の規定に基づき実施するものです。

***参考 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)**

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、第 2 次山形村教育振興基本計画に示されている施策体系・事業計画一覧に記載された事業とします。

3 第2次山形村教育振興基本計画 施策体系・事業計画一覧

第2次 山形村教育振興基本計画

5 施策体系・事業計画一覧 2024年度～2028年度

基本理念

ふるさとを愛し、社会の変化に主体的に対応でき、お互いの多様性を尊重し合う子どもたちの育成とすべての村民が生
きがいと感動に満ちた人生を送れる文化の薫り高い村づくり

次世代を担う人づくり・生涯学び合い続ける村づくり

生涯学習の充実	各施策の課題・目標		事業計画の視点	事業計画
	生きる力を育てる幼児・学校教育	1 幼児教育と子育て支援 ◇切れ目のない子育て支援の充実 ◇豊かな子ども時代を過ごすための社会づくり ◇悩みや課題を抱えた子ども・家庭への一体的支援 ◇子どもと子育て家庭にやさしい村づくり	○村民と共に推進したい事業 ●村主導で推進する事業 ○地域と行政とが連携協働して、子どもの居場所や活動ができる環境や機会をつくりましょう ●少子化や核家族化による子育ての悩みを、地域全体で支援する ●幼児教育の充実を図り、地域の関わりや交流により、安全安心のもと、のびのび育つ環境づくりを推進する	・放課後児童健全育成事業 ・児童館事業・第3の居場所事業 ・子育て関連事業 ・巡回相談事業 ・教育支援委員会事業 ・保育所(園)運営事業 ・保育所(園)・保小連携事業
		2 学校教育 ◇学校施設・設備の整備 ◇教職員の資質の向上と働き方改革の推進 ◇保小中の連携による確かな学力の育成・教育内容の充実 ◇心の問題への対応・相談体制の充実 ◇家庭との連携 ◇地域と共にある学校づくり ◇安全対策の推進	●山形小学校教育の充実を図る ○学校支援をはじめとして、地域・学校協働活動を推進しましょう	・山形小学校グランドデザイン※に基づく教育実践 〔コミュニティ・スクール事業(地域学校協働活動)学校支援地域本部活動保育所(園)、保小連携事業学社連携によるふるさと学習〕
	子ども・家庭支援の充実	3 青少年健全育成・家庭の教育力向上 ◇健全育成活動推進体制の充実 ◇健全な社会環境づくり ◇青少年の体験・交流活動等への参画促進 ◇青少年団体の育成・支援 ◇学校・家庭・地域の連携・協働による家庭教育支援	○地域と行政が連携協働して、地域に子どもの居場所や活動ができる環境や機会をつくりましょう ○青少年が地域に貢献し、ともに活動できる事業を実践しましょう ●各種団体間の連携のもと地域全体で青少年で取り巻く環境について課題を抽出しその対応施策を推進する ○学校・家庭・地域の連携・協働活動を推進し、家庭・子どもの教育の支援を図りましょう	・未来塾運営事業・第3の居場所事業 ・子ども食堂支援 ・社会福祉協議会子育て支援事業 ・子ども会育成事業 ・地域学校協働活動(コミュニティ・スクール) ・児童館事業 ・学校支援地域本部事業 ・PTA活動 ・学校・家庭・地域連携の「共育の日」事業 ・家庭の教育力向上事業
		4 スポーツ ◇スポーツ施設の整備充実 ◇指導者の育成 ◇スポーツ活動の普及促進	○健康や体力づくりのために進んでスポーツ活動に参加しましょう ●スポーツ指導者の育成を図る	・スポーツ推進事業計画に基づく取り組み ・多世代参画型のスポーツ活動の推進
	生涯学習(社会教育)の充実	5 文化芸術・文化財 ◇博物館機能の充実、文化財の保存・活用 ◇文化団体・指導者の育成 ◇文化芸術の鑑賞機会と発表機会の充実	●複合施設のミュージアム機能を活用して、文化財の保存と活用を推進する ○伝統や文化の継承に取り組みしましょう ○芸術鑑賞・発表などに積極的に取り組みましょう	・複合施設の充実による文化財の保存・活用の推進事業 ・各地区における伝統や文化の継承・発展 ・各種文化芸術の鑑賞・発表等推進事業
		6 生涯学習(社会教育) ◇生涯学習、住民交流を支える複合施設の建設整備 ◇多世代参画型社会教育の推進と特色ある公民館講座等の開催 ◇生涯学習の主要拠点としての図書館の充実と読書活動の促進 ◇指導者の育成・確保と活用	●文化交流拠点となる複合施設を建設し活用を図る ○地区公民館等を生涯学習の場所として活用しましょう ○生涯学習の拠点として図書館を有効利用しましょう ●少子高齢化など地域課題を明確にし、その解決と地域活性化に向けて取り組む ○情報化社会に対応した講座の開催など生涯学習の推進を図りましょう	・複合施設の計画・建設・活用事業 ・多世代参画型社会教育推進事業・公民館・分館事業 ・複合施設充実を企図した図書館活性化事業 ・高齢化社会対応型公民館講座開設事業 ・情報化社会に対応した事業
	共生の村づくりと人権尊重	7 共生の村づくりと人権尊重 ◇主権者教育や人権教育・啓発の推進 ◇人権教育・啓発推進体制の充実	○ふるさとの歴史文化などへの学習を深め、ふるさとの活性化に向けた課題を抽出し、その解決に向け取り組み主権者教育を推進しましょう ●人権教育・啓発運動を継続的に推進する	・学社連携によるふるさと学習と地域課題の解決に向けた主権者教育の推進 ・人権教育推進協議会事業(研修会、授業参観) ・分館・企業・村職員等人権講座、各種啓発事業

4 点検・評価の方法及び活用等

点検・評価シートの項目に基づき、第2次山形村教育振興基本計画の施策体系・事業計画一覧に示された事業について、担当者による自己評価(第1次評価)を行い、その内容を山形村教育振興基本計画評価委員会(以下「評価委員会」という。)に提出します。

評価委員会では、提出された担当者による自己評価結果を踏まえ外部評価(第2次評価)を実施し、その結果を教育委員会に報告します。

教育委員会では、評価委員会による点検・評価結果の報告を受け、現状と課題等について把握し教育行政の改善策に反映していきます。

5 点検・評価シートの構成

点検・評価シートの構成は、第2次山形村教育振興基本計画の施策体系・事業計画一覧に示された内容に対応する形式としています。点検・評価シートに施策体系と施策を進めるための目標を示し、目標を達成するための事業のねらいと実施した内容及び進捗状況を明らかにし、事業の成果、課題、改善事項等について担当者が点検・評価を行い「A、B、C」の三段階により自己評価をする形としています。

外部評価を行う評価委員会は、担当者の自己評価の内容についてエビデンス等に基づき事業実施の点検・評価を行い、評価結果を「A、B、C」の三段階により示すこととしています。

6 点検・評価シートの様式

点検・評価シートの様式は次のとおりです。

点検・評価シート【令和7年度】

体系：							
目標：							
計画：							
事業名(事業内容) (担当者記入) 【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】			評価委員の意見等				
事業の成果・課題等(担当者記入) 【成果】 【課題】 【改善事項】							
担当者の評価	A	B	C	評価委員の評価	A	B	C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

■ 点検・評価の結果及び今後の取組方針について

1 評価委員会の点検・評価報告書

令和 8 年 3 月 24 日付けで評価委員会から教育委員会に、次の内容の点検・評価報告書が提出されました。

令和 7 年度教育振興基本計画に係る事業の点検・評価委員会報告書

1 はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条の規定に基づき、令和 7 年度の教育振興基本計画に基づく事業について、各担当部署から提出された実施状況及び成果、課題等をもとに総合的な検証を行った。その結果、各分野において計画に基づく事業が概ね着実に実施されており、子どもたちの学びや成長を支える環境の整備に向けた取組が継続的に進められていることが確認された。

特に、子育て支援分野においては、相談体制の整備や関係機関との連携の強化など、妊娠期から子育て期に至るまで切れ目のない支援体制の構築に向けた取組が進められている。また、学校教育分野においては、児童生徒一人ひとりの状況に応じた指導の充実や学習環境の整備、地域資源を活用した教育活動の推進など、教育内容の充実に向けた取組が実施されている点は評価できる。

一方で、点検・評価の結果を総合的に見ると、事業の実施自体は行われているものの、その成果や効果が十分に検証されていない取組や、目標の達成状況が必ずしも明確でない事業も見受けられた。また、関係機関との連携の在り方や情報共有の仕組み、保護者や地域への周知の方法などについても、なお改善の余地があると考えられる。加えて、事業によっては取組の継続にとどまり、課題の解決に向けた新たな工夫や発展的な取組が十分に示されていないものも見受けられた。

少子化の進行や家庭環境の多様化など、子どもや教育を取り巻く環境が大きく変化する中で、教育施策にはこれまで以上に実効性の高い取組が求められている。今後は、本点検・評価の結果を踏まえ、各事業の目的や成果指標を改めて整理するとともに、施策の効果を客観的に検証しながら、必要に応じて事業内容の見直しや改善を図っていくことが重要といえる。

以下に、分野ごとの取組状況と評価について整理する。

2 分野別の取組状況と評価

(1) 幼児教育と子育て支援

幼児教育と子育て支援の分野では、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援体制の充実を図る取組が進められている。令和7年度にはこども家庭センターが設置され、相談窓口の一本化により、妊娠・出産・子育てに関する相談体制が整備された。保健師と社会福祉士による定期的な情報共有会議の実施により、育児不安や虐待の兆候を早期に把握し、必要な支援につなげる体制が構築されている点は評価できる。

また、保育園においては、子どもが主体的に遊びや活動に取り組めるよう、季節や環境を生かした保育環境の整備が行われている。特に、異年齢での交流を意識した園庭環境の構成や、保育士同士のチームによる環境づくりの検討など、保育の質の向上に向けた取組が進められている。

保小連携についても、合同研修や交流活動を通して相互理解を深める取組が行われているが、校種間の違いによる指導者の教育観の共有や接続の具体化には引き続き課題が見られる。今後は、園と学校の双方が継続的に協議する場を設けるなど、より実践的な連携を進めることが求められる。

放課後児童クラブや児童館事業においては、子どもが安全に過ごせる居場所づくりが行われ、異学年交流や体験活動を通して児童の社会性の育成に寄与している。一方で、利用児童の増加に伴う職員確保や施設設備の老朽化など、運営面での課題も見られることから、将来的な児童数の推移も踏まえた施設整備や運営体制の検討が必要である。

さらに、「第3の居場所事業」や教育支援委員会、巡回相談事業など、特別な配慮を必要とする子どもへの支援体制も整備されており、学校や関係機関と連携した支援が行われている。今後は、関係機関の連携を一層強化し、支援が必要な子どもや家庭が早期に適切な支援を受けられる体制を継続して整えていくことが今後重要といえる。

(2) 学校教育

学校教育の分野では、児童の主体的な学びを重視した教育活動が推進されている。小学校では、「自分のまなびをたてよう」を教育重点目標に掲げ、探究的な学習のサイクルを取り入れた授業づくりが進められている。児童が自ら課題を見だし、追究した成果を発表する機会を設けるなど、主体的な学習を促す取組が展開されている。

また、保小連携の取組として、保育参観や授業参観、接続懇談会などを通して相互理解を深める活動が実施されている。

今後は、児童同士の交流機会の拡充や教職員全体の意識共有を図り、円

滑な接続を実現するための具体的な取組を進めることが望まれる。

教職員の働き方改革については、勤務時間の見直しや業務改善の取組により、時間外勤務の削減が進んでいることが確認された。保護者の理解を得ながら改革を進めている点は評価できるが、職員間の業務負担の偏りが課題として挙げられていることから、教科担任制の導入や職員配置の工夫などにより業務の平準化を図る必要がある。

さらに、コミュニティ・スクールや学校支援地域本部の取組により、地域住民が学校教育に参画する体制が整いつつある。地域ボランティアによる学習支援や環境整備活動などは、教育活動の充実に寄与している。一方で、ボランティアの高齢化や活動の継続性が課題として挙げられており、今後は新たな人材の発掘や地域への周知を進めることが重要といえる。

（３）青少年健全育成・家庭の教育力向上

青少年の健全育成の分野では、地域未来塾や子ども会活動など、地域住民の協力による学習支援や体験活動が実施されている。

未来塾では大学生や地域の教員 0B 等が指導に関わり、児童生徒の学習習慣の形成や基礎学力の定着に寄与している。

また、子ども会育成会事業では、チャレンジ広場などの活動を通して子どもたちの体験機会が提供されている。しかしながら、ジュニアリーダーの応募が少ないことから、子ども自身の意見を活動に反映させることが難しい状況も見られる。今後は若い世代の参画を促す仕組みづくりが求められる。

学校・家庭・地域が連携する「共育の日」事業については、運営体制の見直しを行い、「あそびの広場」として開催されるなど新たな形で実施された。多くの参加者があり、親子が共に体験する機会として有意義な取組となっている。今後は関係団体との役割分担を整理し、持続可能な運営体制を整えることが必要である。

（４）スポーツ活動

スポーツ分野では、多世代が参加できるスポーツイベントや講座が実施され、村民の健康づくりや交流促進に寄与している。ミニ運動会や各種講座には多くの参加者があり、スポーツ活動への関心の高さがうかがえる。

一方で、スポーツ団体間の連携やスポーツ推進委員の認知度向上など、活動をさらに広げていくための課題も見られる。今後は、地域のスポーツ団体と協力しながら事業を展開し、より多くの住民がスポーツに親しむ機会を確保することが望まれる。

(5) 文化芸術・文化財、生涯学習

文化芸術や生涯学習の分野では、文化活動の発表機会の提供や公民館講座の開催など、多様な学習機会が提供されている。文化祭や展示活動では個人展示が増えるなど、村民の文化活動の広がりが見られる。

また、複合施設整備に向けた基本設計が完了し、住民参加型のワークショップを通して計画が進められている。複合施設は文化財の保存活用や図書館機能の充実、住民交流の拠点として重要な役割を担うことが期待される。

図書館事業では、システム更新や講座の開催により利用促進が図られているが、今後は蔵書の充実やイベントの充実など、複合施設開設を見据えた準備を進めることが必要である。

(6) 人権教育

人権教育の分野では、研修会や講演会などを通して人権意識の維持・向上を図る取組が継続して行われている。学校職員や地域団体と連携した研修の実施により、人権に関する理解を深める機会が提供されている。

一方で、人権という言葉に対する抵抗感を持つ住民もいることから、より多くの人に参加しやすい学習機会の工夫が求められている。また、主権者教育の視点を取り入れた取組を進めることで、地域社会の中で人権を考える機会を広げていくことが期待される。

3 まとめとして

令和7年度の教育施策は、教育振興基本計画に基づき、概ね順調に実施されていると評価できる。

特に、学校・家庭・地域が連携した教育活動や、地域資源を活用した学習活動が進められており、地域全体で子どもを育てる環境づくりが着実に進展している。

一方で、多くの事業に共通する課題として、担い手の確保、事業の認知度向上、関係機関の連携強化、持続可能な運営体制の構築などが挙げられる。これらの課題に対応するためには、地域住民や関係団体との協働をさらに深めるとともに、広報活動の充実や新たな参加者の掘り起こしを進めることが重要である。

今後も教育振興基本計画の理念に基づき、地域の実情を踏まえながら、子どもから高齢者まで誰もが学び続けることのできる環境づくりを推進していくことを期待する。

2 評価委員会の点検・評価シート(第2次評価)

体系：幼児教育と子育て支援			
目標：切れ目ない子育て支援の充実			
計画：子育て関連事業(子育て支援の充実)			
事業名(事業内容) (担当者記入)		評価委員の意見等	
【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】4月よりこども家庭センターが設置された。妊娠期から子育て期の相談窓口を一本化することで、妊娠・出産・育児に関する様々な相談に応じ、必要な子育て関連事業につなげ切れ目ない支援を行った。		こども家庭センターの設置による相談窓口の一本化は、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援体制の構築に向けた大きな進展といえる。 保健師と社会福祉士の連携による育児不安や虐待の兆しの早期発見は高く評価できる。 今後は課題である学童期の支援継続に向け、学校や関係機関との連携強化により継続的な支援体制を構築していくことが期待される。	
事業の成果・課題等 (担当者記入)			
【成果】保健師と社会福祉士の情報共有会議を定期的実施。育児不安や虐待の兆しを早くつかみ、早い段階で支援につなげられている。 【課題】就学以降は支援課と関わる機会が少なくなり、保護者から相談がない限り支援につながりにくくなる。そこで、子どもと日常的に接している小学校などの関係機関と情報を共有し、学童期も保護者と子どもが途切れず支援を受けられる仕組みづくりが必要である。 【改善事項】新しく導入する母子手帳アプリ「母子モ」を活用し、必要な子育て支援情報をタイムリーに届けるとともに、こども家庭センターの存在を広く周知することにより、学童期の保護者も相談しやすい環境を整備する。また、小学校や児童館と定期的に連絡会を開催し、連携しながら支援を行っていく。			
担当者の評価	A	B	C
評価委員の評価	A	B	C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：幼児教育と子育て支援			
目標：子どもと子育て家庭にやさしい村づくり			
計画：保育園運営事業			
事業名(事業内容) (担当者記入)		評価委員の意見等	
【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 季節に合わせた環境を用意し、子どもたちが主体的に活動できるよう保育を進めた。夏には保育士が3つのチーム(砂・泥・水)に分かれて園庭の環境を構成。年齢ごと遊ぶのではなく、様々な年齢と一緒に遊ぶことができる環境を考えた。ICT活用については、連絡帳機能を全体に拡充し利便性の向上を図った。		園児の活動の多様性を引き出すことを目的とした季節や環境を生かした保育の工夫や、異年齢交流を意識した園庭環境の構成、保護者等との円滑な情報共有に向けてのICT（連絡帳機能）の拡充など、質的向上と利便性の両面で成果が見られる。 保育から能力開発へとシフトするための方策の工夫による異年齢交流の促進も好ましいといえる。 園内環境の見直しに際しては、適切に計画が実行できるよう予算措置等、計画的に検討を進められたい。	
事業の成果・課題等 (担当者記入)			
【成果】保育士が少人数(チームごと)で環境について話し合ったことは、新しい意見や考えが出るなど良い機会となった。子どもたちも異年齢でのかかわりが増えたように感じる。 【課題】環境に必要な補材や用具の準備に時間がかかるケースもあったので、話し合いの時期を考える必要がある。(令和8年度については購入物が決まっているため早急に用意する予定) 【改善事項】園庭の環境構成だけでなく、園内の環境構成を見直す必要がある。			
担当者の評価	A	B	C
評価委員の評価	A	B	C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：幼児教育と子育て支援			
目標：子どもと子育て家庭にやさしい村づくり			
計画：保小連携事業(保育園)			
事業名(事業内容) (担当者記入)		評価委員の意見等	
【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 改善事項であった学校職員との合同研修を実施したが、園の職員と小学校職員との子どもとのとらえ方の違いに気づくことができた。 5年生との交流は例年通り行なわれ、かかわりを持つことができた。2月には1年生との交流が計画されている。		小学校職員との合同研修により、互いの校種の違いによる教育観の違いを認識できた点は保小接続を考える上で有意義で一步前進したといえる。また、小学生との交流は園児の就学への安心感につながる取組といえる。 一方で、相互理解の停滞や交流の固定化が課題として示されていることから、交流内容の充実や学年の幅を広げるなど、お互いに目的や運用についての相互理解を深めるための議論の場を広げ、より効果的で実効性のある接続の形を模索してほしい。	
事業の成果・課題等 (担当者記入)			
【成果】園児にとって、小学生との交流は入学するにあたってよい機会となった。 【課題】保小の接続に関しての相互理解が停滞していると感じている。園からのアプローチの仕方を変える必要がある。保小交流内容が固定化されているので学年の幅を広げるなど充実を図る必要がある。 【改善事項】保小接続に関する研修会を行うなどして、教育観のすり合わせをすることが重要であり、保小連携について実践化できることが必要である。			
担当者の評価	A	B	C
評価委員の評価	A	B	C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：幼児教育と子育て支援		
目標：豊かな子ども時代を過ごすための社会づくり		
計画：放課後児童健全育成事業		
事業名(事業内容)（担当者記入） 【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 集団生活を通して児童の健全育成を図ることを目的に、小学1年生から6年生までの児童を対象として、放課後や学校休業日に適切な遊びや生活の場を提供した。		評価委員の意見等 放課後の安全な居場所を提供し、異学年交流を通じて児童の社会性の育成に寄与している点で基本機能を着実に果たしていると評価できる。 小学校の施設活用や児童館等の施設の課題や、様々なプログラムが並行している中で、利用児童の増加に対応した効果的な運用についての方策を関連部署と連携を取りながら、将来の少子化動向も見据えて検討していくことが望ましい。
事業の成果・課題等（担当者記入） 【成果】児童の安全確保に努め、子育て支援施設としての責務を果たすとともに、異学年交流を促進することで、児童の社会性向上に寄与した。 【課題】利用児童の増加、職員の確保、施設の老朽化(大型備品、施設設備の経年劣化等)が課題として挙げられる。 【改善事項】今後進むとされている少子化の影響も考慮しながら、建て替えを含めた施設の維持管理について更なる検討が必要。		
担当者の評価	A B C	評価委員の評価 A B C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：幼児教育と子育て支援	
目標：豊かな子ども時代を過ごすための社会づくり	
計画：児童館事業	
事業名(事業内容) (担当者記入) 【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 子どもの心身の健康を増進し情操を豊かにすることを目的に、健全な遊びを提供した。	評価委員の意見等 各種活動を通して健全な遊びの機会を提供し、子どもの心身の発達に寄与しているといえる。業務委託により事業内容が昨年度より充実した点を参考に新たな事業やニーズの掘り起こしや講師陣を充実させ、より魅力ある活動の展開に期待したい。
事業の成果・課題等 (担当者記入) 【成果】レインボーサークルや運動遊び教室等、健全な遊びの提供を実施できた。 【課題】業務委託の影響を受けて昨年度よりも充実した内容となったが、今後も利用者のニーズを把握しながら、新たな事業を企画していく必要がある。併せて、環境教育に関する様々なコンテンツも活用し、次世代へのGX普及啓発にも取り組む。 【改善事項】引き続き委託業者と連携しながら、新規講師、教室の開発、GXへの取組推進等計画していく。	
担当者の評価 A ☒ B C	評価委員の評価 A ☒ B C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：幼児教育と子育て支援			
目標：豊かな子ども時代を過ごすための社会づくり			
計画：第3の居場所事業			
事業名(事業内容) (担当者記入)		評価委員の意見等	
【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 信頼できる大人や友達と安心して過ごせる環境で、基本的な生活習慣を整え、学習支援を受けることで自己肯定感や将来の自立に向けて生き抜く力を育むことを目的に、ボランティア活動、スポーツ体験、調理体験などを行った。		事業利用対象者の条件が複雑であることなどから、実際の運営は困難を伴う内容もあるが、安心して過ごせる居場所を提供し、学習支援や体験活動を通して児童の自己肯定感や社会性の育成に向けて確実に実績を上げているといえる。 運営体制も変更されるのを機に、第三の居場所、児童館、学校とが情報を共有し、それぞれの場での事業での課題解決に向け連携して事業が運営され、支援を必要とする子どもが利用しやすい体制が構築されることを期待する。	
事業の成果・課題等 (担当者記入)			
【成果】年度途中から利用を開始した児童も、短期間で大人や友達と信頼関係を築くことができ、学習等に積極的に取り組むことができた。 【課題】様々な事情のある子どもが利用できるよう、事業の周知に力を入れることが必要である。また、B&G財団の助成は今年度で終了するため、令和8年度からは国の補助で運営することになる。(補助事業名：児童育成支援拠点事業 補助率 国1/3 県1/3 市1/3) 【改善事項】運営マネージャーが代わり、スタッフ同士の融和を進めながら支援の充実を図る。また、様々な事情がある子どもが利用できるよう第三の居場所、児童館、学校がより一層連携を深めること。			
担当者の評価	A	B	C
評価委員の評価	A	B	C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：幼児教育と子育て支援	
目標：悩みや課題を抱えた子ども・家庭への一体的支援	
計画：教育支援委員会事業	
事業名(事業内容) (担当者記入) 【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 特性がある幼児、児童の就学や学びの場所について審議、判断するための有識者による委員会で、巡回相談等を通じて年に5回の委員会を開催している。	評価委員の意見等 専門的知見を持つ委員による審議を通して、幼児・児童にとって適切な学びの場を検討している点が重要で、巡回相談や支援会議を通して保護者との合意形成を図ることが、より適切な判断につながると考えられる。 個々の幼児・児童の特性をそれぞれの担当部署で適切に把握し、保護者の理解を得ながら、個々の最適な学びが展開できるように、専門機関との一層の連携を強化し、丁寧なプロセスを経て内容の充実を図ることを期待する。
事業の成果・課題等 (担当者記入) 【成果】令和7年度は、24件の審議及び判断をして、最適な学びの場所について保護者に通知することができた。 【課題】審議に至るまでの巡回相談、支援会議等の段階で保護者との合意形成が十分に得られていることが、最適な学びの場所を判断する上で大切である。 【改善事項】委員会は様々な専門知識を有するメンバーで組織しているが、より必要とされる専門性を持った機関等との連携が一層必要である。	
担当者の評価 A B C	評価委員の評価 A B C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：幼児教育と子育て支援								
目標：悩みや課題を抱えた子ども・家庭への一体的支援								
計画：巡回相談事業								
事業名(事業内容) (担当者記入) 【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 園児・児童の健やかな成長・発達のため、対象児の発達課題についての相談支援、担任の支援力向上につなげる相談支援、子育てに悩む保護者の相談支援、就学に向けての相談支援を行った。 (令和7年度の巡回相談のメンバーは、療育センターの療育コーディネーター、松本養護学校教育相談担当他で、11名により巡回相談を実施した。)		評価委員の意見等 専門機関との連携による継続的な相談支援や、参観の観点の改善が、担任の支援力向上や対象児の適切な学びの場の提供に寄与しているといえる。参観観点の明確化によりカンファレンスの充実が図られた点も評価できる。 参観後のカンファレンスの充実や相談資料作成にあたっての改善等も含めて、年間を見通した対象児選定の在り方など指導体制の強化に期待したい。						
事業の成果・課題等 (担当者記入) 【成果】 定期的な巡回相談により、継続して支援の検討を行うことで担任の支援力向上に繋がったり、対象児の適切な学びの場を検討する判断材料となったりした。参観する際の観点を明確化したことで、カンファレンスの充実が図られた。 【課題】 多角的な視点からのアドバイスを集約できるカンファレンスの充実。 【改善事項】 参観の観点を書き込める相談資料の修正。小学校において年間を見通した対象児の選定。								
担当者の評価 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> </tr> </table>	A	B	C	評価委員の評価 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> </tr> </table>		A	B	C
A	B	C						
A	B	C						

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：学校教育		
目標：保小中の連携による確かな学力の育成		
計画：保小連携事業(小学校)		
事業名(事業内容)（担当者記入） 【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 切れ目のない円滑な保小接続のあり方を検討するため、職員同士の保育参観・授業参観、接続懇談会の開催(2回)、研修会の実施、園児と5年生との交流、信州幼児教育アドバイザーの派遣を行った。		評価委員の意見等 保育参観・授業参観、接続懇談会、研修会、園児と5年生との交流等の事業について良好に展開されているので、今後は児童同士の交流をさらに充実させるとともに、育てたい子供像の共有を一層深め校種による教育観の違いのすり合わせによる接続の具体的内容の検討を深め、これまでの事業の深化を期待したい。
事業の成果・課題等（担当者記入） 【成果】観点を明確にして参観を行ったため、お互いの様子や意図を理解し、接続懇談会において子どもたちの何を大切に育てたいかを考え深めることができた。また、研修会では県外の先進的な取り組みを学び、山形村における今後の方向について検討することができた。 【課題】子ども同士の交流の促進。小学校職員全体への意識向上。 【改善事項】お互いの参観をもとに、育てたい子ども像の共通認識を深め、接続の具体的内容を検討したりする懇談会の充実。		
担当者の評価	A B C	評価委員の評価 A B C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：学校教育	
目標：教育内容の充実	
計画：山形小学校グランドデザインに基づく教育実践	
事業名(事業内容) (学校長記入) 【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 教育重点目標を「自分のまなびをたてよう」とし、社会の変化に主体的に対応できる資質・能力を育むことを目標に「課題発見力」「協働解決力」「向かう心と体」の育成を視点に、それを生かせる探究的な学びのサイクルを取り入れた学習活動を行った。	評価委員の意見等 学校教育目標の具現化に向けグランドデザインが設計され、子供たちの自己肯定感を高めたり、地域に開かれた教育課程として探究的な学びのサイクルを取り入れた教育実践の成果を学習発表会で公開するなど学校経営の工夫がみられる。 今後は、カリキュラム・マネジメントの観点から、教育内容の系統性や関連性を踏まえた地域の教育資源を活用した教育実践の蓄積や深化を目指す教育実践に励んでいただきたい。
事業の成果・課題等 (学校長記入) 【成果】探究的な学びのサイクル「発信」の場として「まなびの発表会」を位置付けた。今年度は全校同一日ではなく学年毎に実施することで、より児童の主体性を大事にした発信のタイミングを図った。自ら問いをたて、追究してきたことを自信をもって発表した児童が、次の活動につながる願いを持つ姿があった。 【課題】探究的な学習のスタイルを、より充実させたい。 【改善事項】探究的な学習のスタイルの教科横断的な展開と、学年を超えた学びの共有を図るため、発信・共有方法を工夫していく。	
担当者の評価 A B C	評価委員の評価 A B C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：学校教育			
目標：教職員の資質の向上と働き方改革の推進			
計画：働き方改革の推進(小学校の取り組み)			
事業名(事業内容) (学校長記入)		評価委員の意見等	
【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】教職員が児童と向き合う時間や授業準備・研修の時間を確保するため、国・県の方針を踏まえ、18時以降の留守番電話対応、日課や授業時数の見直し、全校5時間授業の部分的実施、課外活動や登校時刻の改善等を進めた。取組に当たっては、保護者に丁寧に説明し理解を得ながら実施している。			
事業の成果・課題等 (学校長記入)			
【成果】職員の出勤日における時間外勤務時間は県が目指す水準を大きく下回っており、また日課や運営方法の見直しについても保護者からの理解が得られ、苦情等は生じていない。 【課題】学校全体として時間外勤務時間は減少しているものの、職員によっては業務量に偏りが見られ、業務の平準化が十分とは言えない点が課題である。 【改善事項】高学年担任の負担軽減に向け、学年内教科担任制や専科配置を進め、特別支援体制の充実に必要な職員配置を要望していく。			
担当者の評価	A	B	C
評価委員の評価	A	B	C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：学校教育			
目標：地域と共にある学校づくり			
計画：コミュニティ・スクール事業(学校運営協議会)			
事業名(事業内容) (学校長記入)		評価委員の意見等	
【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 地域と学校が相互に連携・協働し、共に子どもたちを育てることを目的に、一村一校の特性を生かしたコミュニティ・スクールの取組を推進した。今年度は「共育の日」のあり方を抜本的に見直し、PTA 主催、村教育委員会と社会福祉協議会共催による「遊びの広場」として開催する方針を定めた。		地域に開かれた教育課程とはどういう状態なのかを熟考するなど、学校運営協議会を通して地域の意見を学校運営に反映する取組が進め、学校教育を生涯学習の一部としてとらえる視点としての「共育の日」を「遊びの広場」への刷新は評価できる。 今後、より充実した地域の教育力の向上と学校教育の充実に向けて、遊びから学びが生まれてくる展開も期待し、双方向から知恵を出し合い運営体制が強化され、内容が充実していくことが望まれる。	
事業の成果・課題等 (学校長記入)			
【成果】学校経営方針や教育活動について協議を行った。「学校の元気は地域の元気」の理念のもと、地域の意見を学校運営に反映する取組を進めている。「共育の日」のあり方を検討することにより、地域と学校が方向性を共有する体制が一層深まった。 【課題】協議内容をより具体的な取組へ結び付ける工夫や、協議会の役割の一層の明確化が課題である。 【改善事項】協議内容の見える化と成果の共有を進め、地域と学校が主体的に参画できる運営体制を強化していく。			
担当者の評価	A	B	C
評価委員の評価	A	B	C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：学校教育	
目標：地域と共にある学校づくり	
計画：コミュニティ・スクール事業(学校運営協議会)	
事業名(事業内容) (担当者記入) 【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 コミュニティ・スクール登録と同時に学校運営協議会を立ち上げ、保護者や地域住民等による学校運営への支援・協力を推進するため、協議会を年3回開催。今年度の事業は「学びの発表会」と「あそびの広場」を別日に開催した。	評価委員の意見等 コミュニティ・スクールは、地域の人々の社会参画の方策の一部であることから、社会に開かれた学校教育を具現化するために、課題として示された委員が共通認識を持ち、学校の運営に参画できる体制の醸成段階から次のステージに向かう段階へと進んでいるといえる。 活動内容を委員だけでなく、広く地域の方々に理解していただき、活力ある学びを実現するために活動成果の「見える化」を推進し、地域の参画意欲を高めていただきたい。
事業の成果・課題等 (担当者記入) 【成果】 協議会では、小学校の運営や活動の内容について協議し、事業の開催を通じて、ふるさとを愛し主体的に取り組む子どもの育成に取り組むことができた。 【課題】 協議会の目的を達成するために必要なことについて、委員が共通認識を持ち、学校の運営に参画できる体制の醸成。 【改善事項】 協議会の活動や成果をホームページやチラシ等により周知し、地域住民等の学校運営の関りや参画が促進されるようにする。	
担当者の評価 A B C	評価委員の評価 A B C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：学校教育			
目標：地域と共にある学校づくり			
計画：学校支援地域本部活動			
事業名(事業内容) (学校長記入)		評価委員の意見等	
【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 地域住民の参画により学校教育活動を支援し、児童の学びの充実を図る事を目的に、環境行事支援部・読み聞かせ支援部・学習支援部・クラブ活動支援部・安全安心支援部の各支援部が継続的な支援活動を実施した。地域ボランティアとの連携体制のもと、教育活動を支える取組を進めている。		地域ボランティアによる多様な支援活動により、主体的な子どもの育成を目指した様々な活動が展開されており、一定の成果を上げているといえる。 子どもの主体性の育成とする支援活動が、得てして主になってしまうことも起こりうるので、子どもたちの活動に切実感をどう持たせるかや、地域社会の参画意欲の高揚に努めていただきたい。 同時に、ボランティアの主体性を尊重しつつ、持続可能な協力体制の在り方の検討が急務といえる。	
事業の成果・課題等 (学校長記入)			
【成果】地域ボランティアの専門的支援により、花壇づくりやクラブ活動等が充実し、取組の成果が対外的にも評価されるなど、教育活動の質の向上につながった。 【課題】地域ボランティアとの協力体制の継続や活動の安定性に課題が見られる。 【改善事項】主体性を大切にしつつ、地域と協議を重ね、柔軟で持続可能な協力体制の在り方を検討していく。			
担当者の評価	A	B	C
評価委員の評価	A	B	C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：学校教育	
目標：地域と共にある学校づくり	
計画：学校支援地域本部活動	
事業名(事業内容) (担当者記入) 【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 地域のボランティアが、安全安心、学習支援、行事環境、読み聞かせ、わくわくクラブの5支援部を構成し、学校と協働で実施できる活動を行っている。	評価委員の意見等 地域ボランティアの協力により学習支援や環境整備などの活動が展開され、水田学習のような農業体験学習や花壇づくりなどの環境整備などで、外部からの評価を得て具体的な成果が得られている。支援活動の主体性を尊重しつつ、子供たちの学びの切実感をどのように生み出し展開するか、学校のカリキュラム・マネジメントとの整合性について検討するとともに、ボランティアの高齢化という課題に対し、無理のない範囲での人材掘り起こしに努められたい。
事業の成果・課題等 (担当者記入) 【成果】学習支援部では、農家の協力を得て水田学習に取り組み、行事環境部は小学校の花壇づくりにおいて、農林水産大臣賞受賞の一助となることができた。 【課題】ボランティアの高齢化が進んでいるため、活動の周知と共に人材の掘り起こしが課題である。 【改善事項】「できる人が、できる事を、できる範囲で」の原則で共に活動をいただける地域ボランティアの充実を図る。	
担当者の評価 A B C	評価委員の評価 A B C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：学校教育	
目標：地域と共にある学校づくり	
計画：学社連携によるふるさと学習	
事業名(事業内容)（学校長記入） 【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 地域の「ひと」から「もの・こと」へと学びを広げ、自分事として主体的に探究する力を育むことを目標に、プロジェクトYを教育課程に位置付けている。給食や農業、村政、地域の自然や歴史・文化資源等を題材に、地域と連携したふるさと学習を展開している。	評価委員の意見等 「プロジェクトY」を通じて、地域の人や資源を活用した探究的な学習を展開することで、児童が地域の良さを実感する学びが展開されている。 総合的な学習と教科学習との往還の中で展開されるであろうふるさと学習は、カリキュラム・マネジメントが問われる学習活動であることを意識し、実践の積み重ねを活用する方策を探ることで、より円滑な学習始動が展開されることを期待する。
事業の成果・課題等（学校長記入） 【成果】地域と関わる探究的な学びを通して、児童が地域のよさを実感し、主体的に学びに向かう姿が見られた。 【課題】主体性を尊重する中で活動決定に時間を要し、学年間での情報共有や教材化等の学習設計上の工夫に課題がある。 【改善事項】推進係を中心に進捗共有を進め、担任の適切な働きかけのもと探究を始動させる体制を整えていく。	
担当者の評価 A ☐ B C	評価委員の評価 A ☐ B C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：学校教育	
目標：地域と共にある学校づくり	
計画：学社連携によるふるさと学習	
事業名(事業内容) (担当者記入) 【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 村への帰属意識を高め、主体的に考え協働して地域の課題に取り組み、ウェルビーイングな状況を創り出していくため、ふるさと学習を展開する。令和7年度においては、令和6年度に実施した「ふるさと検定ガイドブック」を活用した社会教育の推進を予定したが、具体的な事業への取り組みは十分でなかった。	評価委員の意見等 学校での取組は継続されているものの、社会教育としての具体的な事業展開が十分に広がっていない点が課題と言える。生涯学習の観点から、学校教育で展開している内容をもとに公民館活動への展開や、学社共同の学びといった構想の具現化に向けて、住民が参画しやすい活動を提案されることを期待する。例えば、村の総合計画の実現に向けた取り組みの一つとして位置付けて、地域住民を巻き込んだ学びなども企画し・実施していくことが期待される。
事業の成果・課題等 (担当者記入) 【成果】学校での取り組みは継続して実施されているが、社会教育としてのふるさと学習についての具体的な取り組みは、十分に広がらなかった。 【課題】ふるさと学習の具体的な事業企画と運営 【改善事項】住民の参画を得て、ふるさと学習に関する具体的な事業を企画し実践する。	
担当者の評価 A B C	評価委員の評価 A B C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：青少年健全育成・家庭の教育力向上	
目標：健全育成活動推進体制の充実	
計画：未来塾運営事業	
事業名(事業内容) (担当者記入) 【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 5月から2月までの17回、小中学生を対象に、大学生や教員OBら地域住民の協力で学習習慣の確立や基礎学力の定着を図る。地域未来塾補助金（補助率2/3の申請（令和7年度補助金額 258,000円）	評価委員の意見等 運営形態の小規模な変更はあったが、地域住民や大学生や教員OBの協力により、児童・生徒が集中して学習できる場を提供できている。 学習内容の多様化に向けて、児童・生徒の希望を反映させるなど参加意欲を高める工夫を行いながら、より効果的な運営を図ることが望まれる。
事業の成果・課題等 (担当者記入) 【成果】各々課題に取り組み、だんだんと集中して取り組む時間が増えてきた。全17回 参加人数 中学生18名 小学生20名 延べ人数 中学生118名 小学生166名 参加者よりすごく集中して勉強が出来たのでまたやってほしい。 【課題】課題に取り組む時間の調整が必要。アンケートの結果では、30分くらい大学生の実験や工作、また軽スポーツを望む声が上がっている。 【改善事項】子供の集中力とやる気を一番に考えた運営の仕方を、大学生や支援の先生方と考えていきたい。	
担当者の評価 A B C	評価委員の評価 A B C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：青少年健全育成・家庭の教育力向上	
目標：青少年の体験・交流活動等への参画促進	
計画：子ども会育成会事業	
事業名(事業内容) (担当者記入) 【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 子どもの心身の健康を増進し情操を豊かにすることを目的に、健全な遊びを提供した。	評価委員の意見等 チャレンジ広場などの事業を通して子どもの体験活動の機会を提供している点は評価できるが、時代の変化に伴い、事業内容の根幹を検討しなおす時期に来ている。 事業目的と社会的な要請とをすり合わせて、「チャレンジ広場」の開催・ジュニアリーダーの養成事業等、抜本的に検討し、社会参画の態度を育成するための事業へと変革していく必要があるといえる。
事業の成果・課題等 (担当者記入) 【成果】チャレンジ広場(R7年度参加者数約70名)の企画・運営を実施した。併せて、地区育成会や育成団体への支援（世帯数等に合わせた助成）を行った。 【課題】ジュニアリーダーの応募数が少ないことから、活動全体を通して「子ども達の意見」が反映されにくい。また、人手、資金の不足による規模の縮小等企画内容にも制限がある。 【改善事項】ジュニアリーダーの魅力を発信する機会を設けるほか、募集時期、募集範囲についても検討する。	
担当者の評価 A B C	評価委員の評価 A B C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：青少年健全育成・家庭の教育力向上			
目標：学校・家庭・地域の連携・協働による家庭教育支援			
計画：学校・家庭・地域連携の「共育の日」事業			
事業名(事業内容) (学校長記入)		評価委員の意見等	
【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 学校・家庭・地域が連携し子どもを共に育てることを目的に事業を実施した。本年度は運営の在り方を抜本的に見直し、学校運営協議会での検討を経て、PTA 教養部主催・村教育委員会および社会福祉協議会共催による体制へ移行し、「あそびの広場」として開催した。		学校・家庭・地域が連携して子どもを育てる取組として、運営体制の見直しにより開催された「あそびの広場」6講座に200名の参加を得ることができ、親子でじっくり取り組めるという目的は達せられたといえる。 担当者の負担増が課題となったことから、再度内容・運営を見直し、持続可能な活動とそれに対応する役割分担等の運営体制の見直しを行うことで、学校・家庭・地域が連携して活力ある事業として確立されることを期待する。	
事業の成果・課題等 (学校長記入)			
【成果】6講座を開設し約200名が参加。親子でじっくり取り組む時間を共有するとともに、多くの大人との対話や体験を通して、児童が認められ支えられていることを実感する機会となった。 【課題】運営体制は再構築されたが、PTA や地域支援コーディネーターの負担は大きかった。負担軽減と役割分担の一層の整理が課題である。 【改善事項】関係団体との定期的な協議を通して役割を明確化し、持続可能な運営体制の安定化を図っていく。			
担当者の評価	A	☒ B	C
評価委員の評価	A	☒ B	C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

点検・評価シート【令和7年度】

② 教育委員会

体系：スポーツ			
目標：スポーツ活動の普及促進			
計画：多世代参画型のスポーツ活動の推進			
事業名(事業内容) (担当者記入) 【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 誰もが楽しめるスポーツイベントの実施として、公民館開催のミニ運動会、バトミントン講座、バレー講座を実施、また、定期開催の「走りの学校」や「バルシューレ教室」を実施。		評価委員の意見等 運動会に約200名が参加するなど、老若男女を問わずスポーツを楽しむ機会を創出できており、村民の健康づくりと交流促進に寄与している。 運動会の在り方、活動内容等改革途上のものもあるので、村内のスポーツ団体等との協力体制をさらに強め、より一層の普及促進を図りたい。また、今後、部活動の地域移行への協力等も模索されたい。	
事業の成果・課題等 (担当者記入) 【成果】 運動会へは200名近くの参加があり、他講座にも多くの参加者があった。いずれも老若男女問わず参加をしていただけた。 【課題】 運動会実施は模索段階（R8は春開催）、スポーツ団体間の協力 【改善事項】 村で活動するスポーツ団体等に協力をいただくことで、より一層の促進が図られる			
担当者の評価 A B C	評価委員の評価 A B C		

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：スポーツ	
目標：スポーツ活動の普及促進	
計画：スポーツ推進事業計画に基づく取り組み	
事業名(事業内容) (担当者記入) 【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 スポーツ推進委員を中心にスポーツの普及へ取り組む講座や行事に委員を派遣し、普及促進を図る。	評価委員の意見等 スポーツ推進委員の各種行事への派遣により多様化が図られている。様々な場面での積極的なスポーツ推進員の活用による前例踏襲にとどまらない新しいチャレンジへ向かう環境づくりを期待する。
事業の成果・課題等 (担当者記入) 【成果】 運動会や各種講座での協力を実施。 【課題】 スポーツ推進委員の村民への認知度向上と、協力回数の減少。 【改善事項】 事業課として、前年度踏襲を基本としたスポーツ推進委員さんの活用だけではなく、新しいことにチャレンジできる状態にしたい。	
担当者の評価 A B C	評価委員の評価 A B C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：文化芸術・文化財	
目標：博物館機能の充実、文化財の保存・活用	
計画：複合施設の充実による文化財の保存・活用の推進事業	
事業名(事業内容) (担当者記入) 【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 複合施設の設置により、文化財の保存活用、図書館活動を主とした生涯学習、住民交流の推進をはかり、活気ある村づくりを推進する。基本設計を終え、実施設計を進めている。	評価委員の意見等 住民参加のワークショップを経て基本設計を完了させた点は着実に進展しているといえる。 開館に向けた機運醸成とともに、施設開設後の運営体制や管理計画を具体化するとともに、住民参画を促す取組を進めることが重要である。
事業の成果・課題等 (担当者記入) 【成果】住民参加のワークショップを開催する等、基本設計が完了。実施設計を進めている。 【課題】施設オープンへ向けた取り組み、開設後の運営・管理計画をより具体化していく必要がある。 【改善事項】愛称の募集、ボランティア養成など、住民参画に向けた準備を進める必要がある。開設後の管理や運営に向けた具体的な計画を練り、準備を進める必要がある	
担当者の評価 A B C	評価委員の評価 A B C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：文化芸術・文化財		
目標：文化芸術の鑑賞機会と発表機会の充実		
計画：各種文化芸術の鑑賞・発表等推進事業		
事業名(事業内容) (担当者記入) 【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 各施設を利用しているサークルや個人の芸術品展示や、発表を文化祭で行ったり、施設のスペースを利用したりして鑑賞機会の提供や企画を行った。		評価委員の意見等 文化祭や施設のスペースでの発表展示が、サークルに加えて、個人での展示も増え、発表のハードルが下がっている点は成果といえる。 発表の場の周知に励み、より多くの村民が積極的に発表にチャレンジするようなサポート体制の構築を期待する。
事業の成果・課題等 (担当者記入) 【成果】サークルでの展示が多かったが、個人での展示も増えてきており、発表のハードルが下がってきている。 【課題】発表できる機会があるの知らない村民も多い。 【改善事項】各団体、村民が積極的に発表の機会をえられるようなサポートが必要。		
担当者の評価	A B C	評価委員の評価 A B C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：生涯学習(社会教育)	
目標：多世代参画型社会教育の推進と特色ある公民館講座等の開催	
計画：多世代参画型社会教育推進事業・公民館・分館事業	
事業名(事業内容) (担当者記入) 【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 ニーズの高く、誰でも参加できる内容の講座実施と、インターネットやチラシを用いて講座内容の認知度の向上を図った。また、団体間を超えた協力により、質の高い内容で開催を行った。	評価委員の意見等 ニーズと誰でも参加できるということをメインにして講座の認知度向上を図った結果として、26講座開講と多くの参加者を得ることができたことは成果といえる。 講座の定期化や多世代交流講座の拡大に向けて、他団体・他地域との連携強化を図ったり、認知度向上に努めたりすることで、さらに参加しやすい学習環境の整備と事業の充実が期待される。また、今後、部活動の地域移行への協力も模索されたい。
事業の成果・課題等 (担当者記入) 【成果】 26講座開催し、延べ500名を超える参加者を見込む (2/16時点) 【課題】 通年講座の認知度の向上と、一般講座の定期化(人気のある講座：多世代交流講座(長期休みに1日を通じ大人と子どもが関わる講座・お茶教室 in 清水等)) 【改善事項】 より一層の認知度のUPや他団体・他地域との連携強化。	
担当者の評価 A B C	評価委員の評価 A B C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：生涯学習(社会教育)			
目標：生涯学習の主要拠点としての図書館の充実と読書活動の促進			
計画：複合施設充実を企図した図書館活性化事業			
事業名(事業内容) (担当者記入)		評価委員の意見等	
【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 令和7年10月からシステムを更新（長期5年リース） 複合施設の機運を高めるために、年4回の縄文カフェ(主な参加世代：子どもとその保護者・高齢者)を開催した。そのほか様々な講座を企画した。		図書館システムの更新による基盤整備とともに、「縄文カフェ」の開催を通じて子どもから高齢者まで幅広い世代に対し、新施設への機運醸成と博物館への関心向上を図った成果は大きいといえる。 今後の課題として挙げられた蔵書数の充実は、複合施設の魅力を左右する重要な要素である。計画的な収集を進めるとともに、改善事項にある「図書館まつり」やマルシェなどのイベントを企画し、常に活気のある村民の知の拠点となることを期待する。	
事業の成果・課題等 (担当者記入)			
【成果】連続講座 縄文カフェを行うことによって、村の博物館への関心を持ってもらえた。 【課題】複合館へ向けて、蔵書数を増やす必要がある。 【改善事項】複合館への期待に応えるため、また図書館の利用者を増やすために、令和8年度は第15回図書館まつりを開催し、興味を持ってもらえる企画を考えたい。複合館になるにあたっては、常にイベントを開催したい。(マルシェなど)			
担当者の評価	A	☐ B	C
評価委員の評価	☐ A	B	C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：共生の村づくりと人権尊重		
目標：人権教育・啓発推進体制の充実		
計画：人権教育推進協議会事業(研修会、授業参観)		
事業名(事業内容) (担当者記入) 【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 村民一人一人の個性や多様性が尊重されるため、全ての人がともに生きることができる人権尊重社会山形村を目指すために、講演会で学習する機会を設けた。R7.7.3に人権教育推進委員向け研修会を実施、R7.7.22小学校職員向け人権研修会に人権教育推進委員が参加。		評価委員の意見等 推進委員や小学校職員を対象とした継続的な研修により、村民一人一人の個性や多様性が尊重されるための人権教育の充実が図られているが、今後、主権者意識の醸成という意識改革を含めた事業の改善が求められている。 村の総合計画の実行に、村民一人一人がかかわるという社会参画の意識づくりも人権教育が根底になっていることを理解していただく啓発活動もひとつの方策といえる。
事業の成果・課題等 (担当者記入) 【成果】 年2回の研修会で人権意識の維持ができている。 【課題】 主権者としての学びの機会が少ない。 【改善事項】 主権者意識を醸成して、主権者として村とどのように関わるかを考える機会をつくる必要がある。		
担当者の評価	A B C	評価委員の評価 A B C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

体系：共生の村づくりと人権尊重	
目標：人権教育・啓発推進体制の充実	
計画：分館・企業・村職員等人権講座・各種啓発事業	
事業名(事業内容) (担当者記入) 【事業のねらいと実施した内容及び進捗状況】 人権について考えてもらう機会の提供、村民の人権意識の向上を目的とする。分館での人権学習会、村職員の人権研修会、商工会議所での総会にて企業人権学習会を実施。	評価委員の意見等 分館、企業、職員といった異なる属性の層に対し、それぞれの場に 応じた学習機会を提供し、意識向上が図られている。 日常生活に即したテーマ設定や主権者として村の総合計画の実行に 向けてのワークショップなど、親しみやすい活動等の工夫に期待したい。
事業の成果・課題等 (担当者記入) 【成果】 人権意識の維持、向上の機会となった。 【課題】 どの学習会でもいまだに人権という言葉に抵抗感を持つ人がいる。 【改善事項】 老若男女問わず学習会へ参加したくなるような工夫が必要。	
担当者の評価 A B C	評価委員の評価 A B C

A：良好

B：おおむね良好

C：改善の余地がある

3 教育委員会の取組方針

評価委員会からの点検・評価報告を受け、指摘・要望のあった事項については、次のように取組を進めます。

(1) 幼児教育と子育て支援

ア 指摘・要望事項

- ① 保小連携についても、合同研修や交流活動を通して相互理解を深める取組が行われているが、校種間の違いによる指導者の教育観の共有や接続の具体化には引き続き課題が見られる。今後は、園と学校の双方が継続的に協議する場を設けるなど、より実践的な連携を進めることが求められる。
- ② 放課後児童クラブや児童館事業においては、利用児童の増加に伴う職員確保や施設設備の老朽化など、運営面での課題も見られることから、将来的な児童数の推移も踏まえた施設整備や運営体制の検討が必要である。
- ③ 「第3の居場所事業」や教育支援委員会、巡回相談事業など、特別な配慮を必要とする子どもへの支援体制も整備されており、学校や関係機関と連携した支援が行われている。今後は、関係機関の連携を一層強化し、支援が必要な子どもや家庭が早期に適切な支援を受けられる体制を継続して整えていくことが今後重要といえる。

イ 取組内容(指摘・要望事項の番号に対応)

- ① 令和6年度に設置された「保小接続カリキュラム検討委員会」で効果的な接続の在り方について協議を進め、教育観の共有を図り、園ではアプローチカリキュラムを、小学校ではスタートカリキュラムの作成に向けて研究を進め、早期に保小接続の実践活動として展開できるよう取組を促進します。
- ② 長の附属機関である「ふれあい児童館運営委員会」で現状と課題を踏まえ、今後の事業運営の在り方を具体的に検討していくことが望ましいと思われます。また、施設整備については、山形村公共施設個別施設計画(令和元年7月策定)の考え方や、他の公共施設の運営状況を把握し、今後の施設整備の在り方を研究していくことが必要と思われます。
- ③ 定例教育委員会後の教育委員協議会において、小学校長、子育て支援課長、保育園長、児童館長等が出席し、支援が必要な子どもや家庭

等の状況について情報を共有し、今後の支援の在り方を検討します。
また、適切な支援の場につなげるため、保護者へのアウトリーチを継続的に実施します。

(2) 学校教育

ア 指摘・要望事項

- ① 教職員の働き方改革については、勤務時間の見直しや業務改善の取組により、時間外勤務の削減が進んでいることが確認された。保護者の理解を得ながら改革を進めている点は評価できるが、職員間の業務負担の偏りが課題として挙げられていることから、教科担任制の導入や職員配置の工夫などにより業務の平準化を図る必要がある。
- ② コミュニティ・スクールや学校支援地域本部の取組により、地域住民が学校教育に参画する体制が整いつつある。地域ボランティアによる学習支援や環境整備活動などは、教育活動の充実に寄与している。一方で、ボランティアの高齢化や活動の継続性が課題として挙げられており、今後は新たな人材の発掘や地域への周知を進めることが重要といえる。

イ 取組内容(指摘・要望事項の番号に対応)

- ① 働き方改革を一層進めるため、令和8年4月1日から適用する「山形村立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」の内容を推進します。なお、職員間の業務負担の偏りについての改善は、学校における措置として教育委員会と学校が情報を共有し進めて参ります。
- ② 山形村学校運営協議会規則(平成27年山形村教育委員会規則第1号)第17条第2項で、住民の参画の促進等のための情報提供について次のように定められています。
「積極的な情報提供により、学校運営について、地域住民等の理解、協力、参画等が促進されるよう努めるものとする。」こうした規則の規定を根拠に、学校運営協議会での協議内容や、学校支援地域本部活動等について、地域コーディネーター又は教育委員会が指名した者により、定期的に広く情報提供を行います。情報提供の方法として、学校のホームページ、村のホームページ、広報紙、公民館報等を活用し、新たなボランティア人材の発掘に取り組みます。

(3) 青少年健全育成・家庭の教育力向上

ア 指摘・要望事項

- ① 子ども会育成会事業では、チャレンジ広場などの活動を通して子どもたちの体験機会が提供されている。しかしながら、ジュニアリーダーの応募が少ないことから、子ども自身の意見を活動に反映させることが難しい状況も見られる。今後は若い世代の参画を促す仕組みづくりが求められる。
- ② 学校・家庭・地域が連携する「共育の日」事業については、運営体制の見直しを行い、「遊びの広場」として開催されるなど新たな形で実施された。多くの参加者があり、親子が共に体験する機会として有意義な取組となっている。今後は関係団体との役割分担を整理し、持続可能な運営体制を整えることが必要である。

イ 取組内容(指摘・要望事項の番号に対応)

- ① 子ども会は、幼児から高校3年生年齢相当までを構成員として組織される異年齢の集団で、子どもたちが主体となり「生きる力」を身につけ成長していく活動が期待されています。子どもたちの主体的活動を支えていくためには、ジュニアリーダーの存在が重要であることから、引き続きジュニアリーダーの設置を進めることにしています。そのための取り組みとして、点検・評価シートに担当者の改善事項が示されています。なお、今後の子ども会育成会の活動に当たっては、子どもに関わる関係諸団体との連携を進めることも必要と思われます。
【改善事項】ジュニアリーダーの魅力を発信する機会を設けるほか、募集時期、募集範囲についても検討する。
- ② 「共育の日」の目的を踏まえ、学校運営協議会で事業の在り方や今後の事業運営等について協議をし、方向性を出していきます。

(4) スポーツ活動

ア 指摘・要望事項

- ① スポーツ団体間の連携やスポーツ推進委員の認知度向上など、活動をさらに広げていくための課題も見られる。今後は、地域のスポーツ団体と協力しながら事業を展開し、より多くの住民がスポーツに親しむ機会を確保することが望まれる。

イ 取組内容(指摘・要望事項の番号に対応)

- ① より多くの住民がスポーツに親しむ機会を確保するため、山形村ス

スポーツ推進委員設置に関する規則(平成4年山形村教育委員会規則第1号)第2条に規定するスポーツ推進委員の職務内容を踏まえ、地域におけるスポーツの推進のための方策等をスポーツ推進委員会で検討し、実践活動への展開を図ります。

(5) 文化芸術・文化財、生涯学習

ア 指摘・要望事項

- ① 複合施設は文化財の保存活用や図書館機能の充実、住民交流の拠点として重要な役割を担うことが期待される。
- ② 図書館事業では、システム更新や講座の開催により利用促進が図られているが、今後は蔵書の充実やイベントの充実など、複合施設開設を見据えた準備を進めることが必要である。

イ 取組内容(指摘・要望事項の番号に対応)

- ① 基本設計等の内容を踏まえ、生涯学習の拠点施設として、図書館機能、ミュージアム機能、住民交流機能が融合する施設整備に向け、計画的に実施設計を進め、建設工事の早期着手を目指します。また、施設の管理運営の在り方についても同時に検討を進めます。
- ② 図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文科告示第172号)及び第3次山形村子ども読書活動推進計画(令和8年3月山形村教育委員会策定)等の内容を充分踏まえ、複合施設の設置目的が達成されるよう準備を進めます。また、住民交流の場を創るイベント等の開催や、他の社会教育施設等との連携による企画事業の実施など、開館後の施設管理運営も含め具体的に検討を進めます。

(6) 人権教育

ア 指摘・要望事項

- ① 人権という言葉に対する抵抗感を持つ住民もいることから、より多くの人が参加しやすい学習機会の工夫が求められている。また、主権者教育の視点を取り入れた取組を進めることで、地域社会の中で人権を考える機会を広げていくことが期待される。

イ 取組内容(指摘・要望事項の番号に対応)

- ① 毎年度実施している人権意識の高揚を図る取組を継続しながら、ウェルビーイングな状態を創造する基盤となる主権者意識の醸成に向けた取組について検討します。

参考資料

1 山形村教育振興基本計画評価委員会設置要綱

山形村教育振興基本計画評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条第1項及び第2項の規定に基づき、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等のため、第2次山形村教育振興基本計画(令和6年3月策定。以下「基本計画」という。)の執行状況を評価する山形村教育振興基本計画評価委員会(以下「委員会」という。)の設置に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について協議し、教育委員会へ結果を報告するものとする。

- (1) 基本計画に示す事業計画の評価に関すること。
- (2) その他必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、学識経験を有する者3人をもって組織する。

2 委員は、教育委員会が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日からその日の属する年度の翌年度の末日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員の再任は妨げないものとする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

2 委員長は委員会を代表し、会務を総理する。

3 委員長に事故があるとき、又は欠けたときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 委員長は、会議の議長となる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、令和7年2月6日から施行する。

(召集の特例)

2 第6条第1項の規定にかかわらず、最初の会議は、教育長が招集する。

2 山形村教育振興基本計画評価委員会委員名簿

(敬称略、○は委員長)

所属・職名	氏 名
信州大学教職支援センター 教授	○ 小山 茂喜
山形村学校運営協議会 会長	高山 雪
山形村学校支援地域本部企画推進委員会 委員長	平林 昌廣